ときがわカンパニー通信

特別版　2019年秋号
（10月13日　配布予定）

左のロゴは、ときがわ町シェアハウス
まちんなか住民の堀越優美さんが作成

発行：ときがわカンパニー合同会社　文責：関根雅泰（せきねまさひろ）
住所：355-0343　埼玉県比企郡ときがわ町五明1083-1　電話・FAX：0493-65-5700
URL：https://tokigawa-company.com/　メール：info@learn-well.com

ときがわカンパニーは、**「本屋ときがわ町」プロジェクト**を通じて、更に「ときがわ町に人が集まり、仕事が生まれる」状態を創っていきます。この「特別版」は、比企起業塾2期生　風間崇志さん、風間有加さん＠坂戸市が作成しました。

ようこそ「本の町ときがわ」へ！ ～「木」に「一」を足すと「本」になる～

「ときがわカンパニー通信 特別版」では、「本が買える・読める」場所を発信することで、ときがわ町の新たな「１ページ」を発見していきます。
夏号のテーマは「知る人ぞ知る」。本に関係する「知る人ぞ知る」場所をご紹介します♪

読　本が読める・・・A～D
買　本が買える・・・A

A　とき川の小物屋さん　（川崎 敏雄さん）

「こだわりは特にない。お客さんが美味しいと思うコーヒーを毎日いれ続けたら今の味になった。お客さんがつくった味。」

とき川の小物屋さんの名物親父こと、川崎さんが唯一こだわるとすれば、「どうやったらお客さんに喜んでもらえるか」。自分が感動したもの、好きなものを大事にしながらも、それを押し付けず、ただお客さんのことを考え、観察し、味を変え続けることで今の水出しコーヒーが生まれました。このコーヒーを飲みながら、とき川の流れを聴いていると、心からほっとするぜいたくな時間を過ごすことができます。

とき川の小物屋さんには、川崎さんが選書した絵本を買うことができます。選書のポイントは、自分で読んでほっとすること、絵がしっかりしていること。説教くさく、押し付けがましい絵本ではなく、子どもから大人まで、読んで何かを感じられるような絵本を選ぶといいます。川崎さんが選び抜いた絵本を手にとれば、きっと新たな感動が得られます。

B　農業民宿　楽屋（らくや）　（金子 勝彦さん）

キーワードは「２つの楽」と「自給自足」

2019年、楽屋は場所を移し、新たなスタートを切りました。「楽屋」という名前には、2つの意味が込められています。一つはお客さんに提供する「楽しさ」、もう一つは自らへの戒めとしての「楽（らく）」。

20代の頃、会社員から料理人に転向した金子さんは、国内外での勤務で忙しい日々を送っていました。そのうちに自然が感じられる場所で自分の店を持ちたいと思うようになり、自給自足大学に参加したことを機に「自給自足」が人生のテーマになったといいます。有機農業と農業民宿という両輪で事業を営む一方、金子さんのところには、農業をやりたい人などからの移住相談も寄せられるそう。
なんと4年間で5組の家族が移住を実現したといいます。（すごい！）

楽屋には、金子さんの生き方を反映して、料理や農業の本をはじめ、哲学、生き方、デザインなどのアウトプット系、小説、コミックなど多彩な本が並んでいます。

C　古民家カフェ　枇杏　（正木 睦美さん・道朗さん）

夫婦で二人三脚！手作り＆厳選食材のランチが人気の古民家カフェ

枇杏のオープンはちょうど10年前。道朗さんが生まれた家でもあり、空き家になっていた築200年近い古民家を活用して、一念発起、夫婦でカフェを始めました。お店のデザインも夫婦合作。睦美さんの希望を聞きながら、道朗さんが建築会社勤務の経験を活かして自らデザインしたといいます。

一番のウリは、ランチ。肉料理担当は料理が「趣味」という道朗さん、野菜の小鉢やスイーツ、飲み物類は睦美さんが担当。地元を中心に食材を厳選し、すべて手作りしています。こだわりのランチを求めて、平日も休日もお客さんがひっきりなしに訪れるので、食事の際には予約がオススメです。

カウンター下のラックには、趣味の旅行や古民家に関する本や雑誌、絵本などが収められています。座敷の個室には、子ども用の椅子やおもちゃも用意されていて、小さなお子様連れにもオススメです。

ときがわ町の地図は、滑川町在住の
デザイナーの久保田ナオさんが作成

D　豆乳めん・喫茶　斑鳩（いかるが）　（秦 征雄さん）

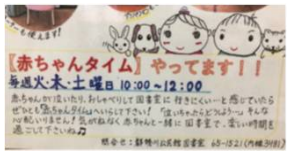
「仕事に意欲があるから、遊びにも意欲が出る」

秦さんを一言で表すと、「多趣味多才」。店内には、「好きだから」と自ら手掛けた彫刻や調度品、家具類などが並びます。中でも目を引くのは、透けて輝くように浮かび上がる仏様のガラス彫刻。大手建築会社でバリバリ活躍していた頃に、「趣味」として始めたといいます。会社勤めの一方、独自技法でガラス彫刻を続け、制作した作品は100点。個展も複数回開催したガラス彫刻家でもあります。

「斑鳩」では、「ただのうどんじゃつまらない」と、こちらも創意工夫を発揮して、豆乳を練りこんだ豆乳めんを提供。奥湯西から仕入れる湯葉とともに、のど越しの良さが味わえます。店内には、趣味の本やビデオもずらり。木工関係の本をはじめ、土門拳氏の写真集『古寺巡礼』など、秦さんの多芸っぷりが反映されたラインナップで興味をひきます。「男はつらいよ」シリーズのビデオ全集は圧巻。

都幾川公民館図書室の「赤ちゃんタイム」を知っていますか？

「都幾川公民館内にある図書室には『赤ちゃんタイム』があるよ」という情報を聞きつけたので、さっそく行ってみました。本庁舎近くにある図書館も素敵なところですが、たまにはこちらの図書室を訪れてみるのもいいですね。特に、赤ちゃん連れの方にオススメです。



「赤ちゃんタイム」ご存じでしたか？
「赤ちゃんタイム」は、毎週火・木・土曜日の午前１０時から１２時まで。
赤ちゃんが泣いても、おしゃべりしていても心配する必要はないとのこと。
幼児向けの絵本が充実していて、広々としたくつろぎスペースで赤ちゃんとのびのび過ごすことができるとくれば、活用しない手はありませんね^^

ここが「木質化くつろぎスペース」。
思った以上に広々としています！
小さなお子様がのびのび過ごすことができます。
靴を脱いで開放的な気分を味わえますね。
ゆっくりと絵本の読み聞かせができそうです。

ちなみに0歳9ヶ月の乳児（サイズはやや大きめ）を解放するとこんな感じ　→

図書室には、赤ちゃん向け絵本をはじめ、約2,000冊の絵本や約250冊の紙芝居、大型絵本が配架されています。これは使わないとモッタイナイ！
児童書も充実しているほか、もちろん一般書も置かれています。（下の見取り図を参照）

ときのこちゃん

木と本に囲まれた「くつろぎスペース」で、子どもの体と心をしっかり守り育てることができるね。絵本と児童書コーナーを合わせると、図書室のほぼ半分が子どものための場所。ときがわ町では子どもを大切にしているんだね！
ぜひお子様づれでいってみてね。

図書室の見取り図　→

ときがわ町を世界に発信しませんか？　～ Instagram “tokigawa_style” やってます～

ときがわ町には、町外の人に知られていない魅力がたくさんあります。特に、四季折々の草花や山、川など、自然が織り成す美しい風景は、まさに風光明媚。
「ときがわ町の美しさ、すばらしさを知ってもらいたい」。そんな想いから、“tokigawa_style”を始めました。
７月から投稿を開始し、現在投稿数は６０を超え、フォロワー数も６０を超えました。地道に発信を続けています。（よろしければ、フォロー＆「いいね」をお願いします！）

あなたしか知らないお気に入りの風景・大好きな場所を、ぜひInstagramで発信してみませんか？
（ハッシュタグに「＃tokigawa_style」を入れていただけると嬉しいです^^）
アカウントをお持ちでない方は、右下のメールアドレスに写真を送っていただいてもOK！
ときがわ町を世界に発信していきましょう！

みんなのおすすめ本コーナー

秋号で取材させていただいた皆さまに、それぞれのお店などにあるオススメの本をお聞きしました♪

『アンジュール』（とき川の小物屋さん　川崎さん）

「作者ガブリエル・バンサンのデッサンは世界一！」というほどのお気に入り。文字はなくても、躍動感のある絵に引き込まれます。大人は字を読んでしまいがちですが、本来の絵本の持つ力を考えさせられますね。絵をじっくり見ながら、子どもと一緒に話をしながらストーリーを追いたくなる本です。

『強く生きる言葉』（農業民宿 楽屋　金子さん）

「読む人に、常にチャレンジする気持ちにさせてくれる本」という金子さんの言葉が印象的でした。時が経っても言葉が色あせず、何度読み返しても、新しい発見があるといいます。農業は毎日が真剣勝負で、試行錯誤の連続。金子さんの心には、まさに本書の言葉が強く生きています。

『手づくり木工大図鑑』（斑鳩　秦さん）

タイトルどおり、木の種類による性質の違いから、木工工具の種類や使い方、技法、製作工程、家具・工具の博物館ガイドまでを網羅した大型本。「何かをつくりたいと思ったら、この本を見ればすべてわかる」といいます。この本をヒントにして、つくった家具や調度品もあるそうです。多趣味多才の秦さんの心強いパートナーのような本ですね。

旅の本＆絵本（古民家カフェ 枇杏　正木さんご夫婦）

お子さんやお孫さんが読んでいた絵本を大事にとってあり、お店に置いています。今も変わらぬお子様たちへの愛情が感じられるようです。
本が収められたラックには、ほかに旅や地元埼玉に関する本や雑誌なども。カゴの中から本を探し出す楽しみも味わえそうですね。

発見！ディープなときがわ

第３回：二十二夜塔（ニヤサマ）

ときがわ町を歩いていると、時々、「二十二夜」と書かれた石塔に出会います。月齢の二十二夜の日に、主に女性が集まる講「二十二夜講」がある、またはあったことを示しています。「二十二夜請」とは、現代でいうと村の女子会のようなものでしょうか。
石塔は、講の記念として立てられるものです。昔の生活が垣間見えて興味深いですね。ほかにも「二十三夜」と書かれた石塔もありますので、ぜひ探してみてくださいね！

「本屋ときがわ町」プロジェクトとは？

「ときがわ町に本屋をつくりたい」という想いからスタート。小さな本屋をたくさんつくり、町全体を「一つの本屋」に見立て、日本初の「Book Town（本の街）」を目指します。ときがわ町を「本を楽しむ人」が集える町にしていきます。

「本屋ときがわ町」は、毎月第３日曜日１０時～１５時、ときがわ町役場前のioffice にて開催しています。各種ワークショップも同時開催。ぜひお立ち寄りください！！

★「本のあるお店」やおもしろい情報をお寄せください★

ときがわカンパニー通信 特別版（年４回発行予定）では、皆さまからの情報も参考にしながら、ときがわ町の魅力を発信しています。冬号（2020年1月発行予定）に向けて、「本のある」場所の情報を大募集中です！　そのほか、珍しい慣習や行事、美しい風景などに関する情報をぜひお寄せください。ご連絡は、**kazaman1157@gmail.com**（風間）まで（^^）